

文献紹介

検 索

医学中央雑誌からみた日本の医学文献の生産状況
児玉 関

医学図書館. 2002 ; 49 (1) : 59-66.

医学中央雑誌のデータベースをもとに日本の医学文献の生産状況を分析した結果、1995年から1999年までの5年間で増えているのはほとんど「会議録」で、「原著論文」は減少しているという。「原著論文」の発表先は海外誌に移行する傾向があり、今後、国内誌の果たす役割が変化していくのではないかと指摘している。

MeSH を使おう：医学情報のプロとして（おもしろくてためになる PubMed の検索方法 3）

阿部 信一

ほすびたるらいぶらりあん. 2002 ; 27 (1) : 65-73.

MeSH のルーツから、MeSH を使った具体的な検索テクニック、その注意点などが詳しく紹介されている。毎年改訂される MeSH を使いこなしていくことは難しいかもしれないが、医学情報の専門家として学び続けていくことが大切であろう。

大学図書館におけるレファレンス・サービスとデータベース：その現状と図書館員の役割

小山 恋司

情報の科学と技術. 2002 ; 52 (3) : 155-161.

多くの大学図書館でエンド・ユーザ検索を中心としたデータベース・サービスが行われている中で、図書館員が今後果たしていく役割について考えている。図書館員を対象にアンケート調査を行い、結果を検討することで、今後の課題を探っている。

第1回EBL研究会 病院図書館員による CASP ワークショップの試み

河合富士美ほか

EBM ジャーナル. 2002 ; 3 (3) : 406-409.

EBM の実践を支援できる病院図書館員の教育・研究を目的に発足した EBL 研究会による CASP (Critical Appraisal Skills Programme) ワークショップの開催内容を紹介している。EBM、CASP の説明と文献検索法が小人数、演習方式で指導され、今後も開催されていくとのこと。

図 書 館

Medical informatics education: an alternative pathway for training informationists

Hersh W

J Med Libr Assoc. 2002 ; 90 (1) : 76-79.

図書館の専門技術と医学情報技術は類似した興味深い分野を発展させているが、その活動範囲に重要な違いがある。従来とは違う考え方を提案している。

図書館の公共性と著作権

阿部 峰雄

図書館雑誌. 2002 ; 96 (2) : 134-136.

「公共図書館の設置及び運営上の望ましい基準について」Ⅲ 基準の内容、2 市町村立図書館(2)資料の収集、提供等 ⑤ が2001年7月18日 文部科学省告示第132号にて追加されたことについて、図書館として著作物の利用に関して、権利の制限の公正さを確保するための要件を定め、状況に応じた利用の制度化を検討し、提言することが急務としている。

製本に出すときに注意すること

及川 はるみ

ほすびたるらいぶらりあん. 2002 ; 27 (1) : 87-89.

雑誌を製本に出すときの注意点が簡単にまと

文献紹介

められている。製本の準備作業を行う前に目を通しておくとチェックポイントの再確認ができてよい。

その他

Medical Vocabulary の構築が専門性への第一関門
横田眞二

医学教育. 2002 ; 33 (2) : 110-111.

医学英語の指導者として、英語は医学を学ぶ基本的「手段」の1つで、情報戦における主要な武器と明言し、単語を構成する各 building block に分けて、それぞれの語源を知り、最終的な用語の意味が導き出す「語源分析」の指導法を取っている。医用英語を理解するために、語源を知り、楽しく、興味を持って行うことが覚え方の最短方法であるらしい。

臨床で看護研究A to Z ⑰ 口頭抄録の書き方
前田ひとみ

看護技術. 2002 ; 48 (6) : 740-743.

院内研究発表における抄録の書き方を物語風に紹介。目的、方法、結果の項目立てと、考察、結論をまとめること。はじめて抄録を書く人へのアドバイスに利用できそう。

電子メールのウイルスに強くなろう
瀧澤崇子

日経パソコン. 2002 ; 409 : 163-166.

電子メールによるウイルス感染と被害の拡大を防ぐためのテクニックが紹介されている。利用者自身で最近の傾向をつかみ、対策を施して

おくことが必要になってきている。

単行本『看護の倫理学（現代社会の倫理を考える1）』（ISBN 4-621-04987-9）

石井トク著

東京：丸善；2002.

看護婦のジレンマ、インフォームド・コンセント、終末期ケアなど看護の現状について、看護倫理と、実際に起こった事件・事例を元に考える。

単行本『生命と医療の倫理学（現代社会の倫理を考える2）』（ISBN 4-621-04988-7）

伊藤道哉著

東京：丸善；2002.

遺伝子診断、クローン、臓器移植など最近の話題について、具体例を挙げながら倫理面から解説している。またインフォームドコンセント、臨床試験、安楽死などについても、医療関係者だけでなく患者の立場に立った考えが述べられており、患者の権利と医師の義務についても考えさせられる。

■文献の入手は、所蔵館へお申し込みください。

■「情報の科学と技術」・「Journal of the Medical Library Association」は協会で購読しています。

■興味ある文献を分かちあいましょう。参考になる文献がございましたら、会誌編集部までお知らせください。